

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101512
法人名	医療法人 川内内科
事業所名	グループホーム 松の実
所在地	徳島県徳島市名東町3丁目15番地 (電 話) 088-633-6681
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 22日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 3月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11人, 非常勤 2人, 常勤換算 亀 6.8人 鶴 6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000~6,200円	
敷 金	有(円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 川内内科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋2階建ての建物の2階がグループホームである。エレベーターを降りると木製の下駄箱が置かれ、その上には生け花や木の実が飾られ、玄関入り口には手作りの暖簾が掛かり、暖かい雰囲気作りができています。敷地内には利用者と共に育てた菜園がある。食事作りは利用者の能力に応じた役割分担で職員と一緒に楽しみながら取り組んでいる。食事は全員食べ終わるまで席を立たず、職員の介助・利用者への声掛けも聞かれるなか静かに遅い方を見守り、最後の方が食べ終わるとはじめて「ごちそうさま」の挨拶となる。暖かく落ち着いた雰囲気の中で利用者はゆったりと生活されている。職員は研修の機会を活かし研修された内容を、職員間で共有し質の高いサービスにつなげている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用案内文への運営理念の明示が改善課題となっていたが、今回、「自由」「安全」「快適」の理念が明記されている。また、毎月発行される「松の実新聞」にも記載し、利用者の家族・地域へと発信している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み行っている。外部評価については評価結果を真摯に受け止め、カンファレンスを行い改善に向けて取り組み、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議で協議された内容はグループホーム内で検討し、サービスの質の向上及び近隣地域への理解へとつなげており、議事録にも記録されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月のホーム便りと個別に健康状態や生活状況を写真を交えてきめ細かく記載した文書を一緒に発送し、家族の安心につなげている。また、面会に来られた時など気軽に意見が言える雰囲気作りを心がけており、本人・家族から苦情が出た場合には素早い対応を心がけている。玄関には意見箱も設置され公的な相談機関も明示されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の秋祭りや小学校の運動会への参加や系列施設との合同夏祭り、コンサート等の地域交流をされている。老人会・婦人会等、地元住民とは挨拶を交わしているが、交流するまでには至っていない。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の目的・方針を基に職員間で話し合い「自由・安心・快適」をグループホーム独自の理念として掲げ実践に取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者と職員間で共有され、実践に活かされている。理念はパンフレットに明示され、ホームの見やすい位置に掲示されている。また、毎月発行している「松の実新聞」にも記載され発信されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の秋祭り、小学校の運動会、系列施設との合同の夏祭り、コンサート等を通して地域との交流をされている。しかし、地元の自治会・老人会等、地域住民とは挨拶を交わしているが、交流するまでには至っていない。	○	挨拶だけでなくホームに来てもらえるような地域住民との日常的な交流が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が行いサービスの向上に努めている。外部評価については真摯に受け止め、職員会で取り上げ改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で検討された内容は、全職員で話し合い共通理解をしてサービスの向上及び近隣地域の理解へとつなげている。議事録にもきちんと記録されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	介護保険の更新等事務手続きでの連絡に留まっている。	○	グループホームの実情やケアサービスの取り組みを伝える事などにより市との交流を進め、サービスの質の向上に努められる事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月のホーム便りと一緒に個別に健康状態や生活の様子を写真を添えて細かく記録されたものを送付し、家族の安心につなげている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会に来られた時等、気軽に意見を言える雰囲気心がけている。また、玄関には意見箱も設置され用紙・ボールペンも備えられている。重要事項説明書の中にも苦情相談機関が明示されている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	新規職員採用時にユニット間の異動は行われているが、基本的に異動はなく馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の勉強会は積極的に行われている。また、職員個々の希望を重視し、資格取得に向けた研修会への参加を支援している。外部研修参加者は報告書を作成し、全職員に内容を伝えている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域同業者との交流はあるが十分とは言えない。	○	グループホーム協会に入会されるなど、同業者との交流を図ることでサービスの質のさらなる向上に取り組んでいかれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の見学や、ホームで数時間過ごしてもらったりしながら、グループホームを身近に感じてもらえるよう配慮し、職員や利用者との馴染みの関係を築きながら利用へとつなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員は利用者を人生の先輩であるという考えを持ち、お互いを認めあい支えあって生活している。利用者からも職員に対する感謝の言葉が聞かれた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情・動作を注意深く観察し意向の把握に努め本人の希望に添った支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ケアカンファレンスを行い、本人・家族の意見も取り入れた利用者主体の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は基本的に3ヶ月に1回見直しされている。状態の変化に応じて適宜見直され家族のサインももらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望や状況に応じて、通院や外出など柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向、意見を尊重し、希望される病院への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を尊重し、重度化や終末期に向けた対応を話し合い、全職員で方針が共有されている。また、ゲストルームもあり、宿泊など家族への対応もできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりへの声掛け、対応はさり気なく行われプライバシーへの配慮が感じられる。プライバシー保護に関する研修もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思や希望を確認しながら希望に添った支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片づけまで個々の能力・したいことを把握し、職員と一緒にしている。食事は落ち着いた和やかな雰囲気、最後の方が食べ終わるまで席を立たず、全員で「ごちそうさま」のあいさつをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は昼食後から夕食前までとなっているが、時間は限定せず利用者の希望に添った支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・趣味・特技を把握し、得意分野で力が発揮できる場を設け、職員は感謝やねぎらいの言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に応じてドライブ・買い物・散歩等外出支援をしている。また、花見・遠足等お弁当を持参して季節を肌で感じられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。目を離さないケアをすることで、一人ひとりの状態を把握でき、精神的に落ち着かない方には、職員と一緒に散歩したりドライブに出かけたりし気分転換を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練をしている。また、運営推進会議の際に地域の方々の協力を働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体病院の管理栄養士による指導を受け、立てられている。一人ひとりの状態に応じた調理がなされ、食事摂取量・水分摂取量は把握され記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には電気カーペットに沿ってソファーが置かれ、テーブルの上には季節の草花が飾られている。壁面には手作りのカレンダー、居室の入り口には手作りの暖簾、食卓のランチョンマットも手作りで家庭の温かさが感じられ、テレビを観たり、新聞・雑誌を読んだりとくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、その人らしい居室作りができています。		